

# 街づくりにおける デジタルサイネージ活用事例

2015年1月21日

三井不動産株式会社

Copyright(C) 2015 Mitsui Fudosan Co.,Ltd. All rights reserved.

## デジタルサイネージ活用の現状

### ◆ 販売促進

- ・テナント・メニュー等の紹介
- ・イベント告知
- ・新着情報の提供

### ◆ 施設利用者・来街者に対する情報提供等によるサービス向上

- ・多言語表記による施設案内
- ・エレベーターホール、エレベーター内でのニュース等提供による待ち時間のストレス解消

⇒ 東京ミッドタウンにおける活用事例

### ◆ 広告

- ・施設を利用したテナントイベントに関する広告掲載が中心

### ◆ 緊急災害時の情報発信

- ・帰宅困難者対策への活用

⇒ 日本橋室町「江戸桜通り」地下歩道における活用検討事例

## ◆ 概要

- ・館内には大小さまざまな約160カ所のデジタルサイネージがあり、イベント告知、店舗情報、施設案内の映像配信等をする他、メディアとしても販売
- ・主に映像配信を実施  
イベント時には生中継などの放映モニターとしても利用
- ・映像配信コンテンツ
  - 自主イベント告知   ○販促イベント告知   ○店舗の新着情報
  - ニュース・天気・為替情報・時報   ○施設案内（設備、ペットエリア等）
  - 防災ファースト・アクション、防災ツアー等の防災関連情報



## ◆ タッチパネル等の多言語表記

- ・フロアマップは4カ国語対応（日本語／英語／中国語（簡・繁）／韓国語）
- ・店舗情報詳細およびイベント情報カレンダーは日英表記
- ・UNION PAY 銀聯カード使用可能店舗一覧を中国語（簡・繁）のページに表記
- ・映像配信の日英表記実施コンテンツ
  - 自主イベント告知   ○ニュース   ○天気   ○為替情報   ○ペットエリア案内
  - 防災ファースト・アクション（オフィス等限定）

### フロアマップにおける日本語／英語／中国語（簡・繁）／韓国語対応



- ・「日本橋室町東地区開発計画」区域内に整備された「江戸桜通り」地下歩道は、中央区より、周辺施設とともに帰宅困難者の一次滞在施設に指定されている
- ・中央区との協議の上、緊急災害発生時の情報提供への利用等を目的として、公共空間である同地下歩道において、デジタルサイネージ（16カ所）を設置
- ・緊急災害発生時には、中央区の要請に基づき、当社災害対策本部の指示により、帰宅困難者一次滞在施設を開設し、デジタルサイネージにおいて以下の情報を発信（運用ルールの詳細は整備中）

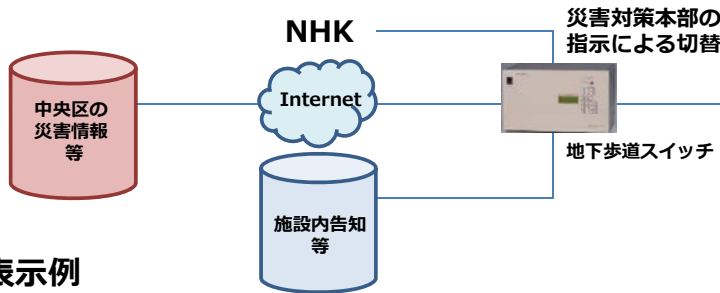
- 公共放送（NHK）
- 中央区が発信する災害情報
- 施設内告知（日本語・英語）

- ・平常時は広告物を放映・掲出  
 なお、公共空間という性格及び街の賑わい創出の観点から、当該地域のエリアマネジメント団体にて運用する広告物掲出ガイドラインを策定すべく、中央区と協議中

「江戸桜通り」地下歩道 帰宅困難者受け入れ訓練 (2014年2月27日)



◆ 災害時対応の仕組みイメージ

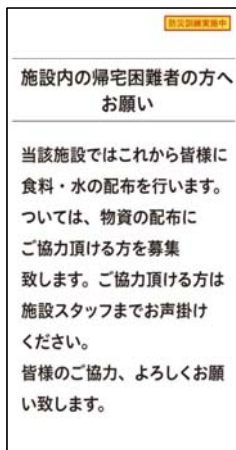


地下歩道サイネージ（16カ所）



◆ 表示例

施設内告知（日本語）



施設内告知（英語）



公共放送（NHK）

